（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型障害福祉サービス事業所　ライフチャレンジ

公表日　2026年5月18日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		集団活動と個別活動に応じて、フロアや屋外の環境設定をしています。	・活動人数によっては、スペースが狭くなる事がある為、内容によって室内と園庭、屋上、公民館の広場等場所を変えています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		人員配置基準を満たした配置をしています。	人員配置基準を満たしており、利用人数を把握しながら配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		福祉施設の為、基準はクリアしています。	活動前に安全点検を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		受け入れ前後の清掃、アルコール消毒を行っています。	冷房・暖房を使用しての室内を適温に保つ環境設定、建物日よけやフロアマットの設置しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	4		活動内容や、子どもの要望や様子等の必要な場面に応じて、個別の部屋を使用出来る環境設定をしています。	子ども達の様子や活動内容によって環境で配慮しています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		全職員が参画しています。	支援開始前・開始後の申し送り、ケース会議等を活用して業務改善につなげています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		全体会議での内容確認を行っています。	アンケート集計結果を会議等で情報共有を行い、業務改善に繋げてします。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		定期的に話し合いを持ち、職員の意見を把握し業務改善に繋げています。	話し合いの中ででた職員の意見を取り入れながら、業務改善に繋げていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		年に１回第三者委員会を実施しています。外部から意見を参考に支援内容の改善に繋げています。	委員からのご指摘を真摯に受け止めて進めています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		外部講師を招いての職員研修会を定期的に開催しています。	研修を通して、支援員の資質向上を目指しています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	4		作成、公表、届出を行なっています。	HPを利用して公表しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		アセスメントでは「新サポートノートえいぶる」を活用。また、保護者との相談や面談を通して、定期的にニーズの確認や見直しを行なっています。	新サポートノートえいぶるの活用と合わせて、個々に合ったアセスメントを活用し柔軟に対応していきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		原案作成後、個別支援会議を開催。個別支援計画書に基づいた評価、その他様子を共有している。定期の個別支援会議以外にも、必要に応じて個別支援会議を開催しています。	支援に関わる全ての職員の意見を反映させ、計画書の作成を行なっています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画書の支援内容を支援員で共有し、計画に沿った支援を行っています。	支援の方向性を支援員に関わる職員全体で確認しながら支援を行っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の行動観察や関係機関（子ども園、保護者、併用事業所等）との連携・情報共有を通して、利用者の状況を把握を行っています。	新サポートノートえいぶるの活用と合わせて、個々に合ったアセスメントを活用し柔軟に対応していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画書に支援内容を明記し保護者様へ説明しています。	計画書に基づいて様々な支援内容を提供する為の教材準備等を行っていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		定期的に活動プログラムをチームで立案する会議を設けています。	支援内容の方向性を確認しながら立案しています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		固定化されない様、定期的に５領域や子ども達のリクエストを組み込んだ内容になる様見直しを行っています。	様々なプログラムを用意できる様、今後も定期的に会議を設定し 立案していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		子どもの状況に合わせて計画書を作成し、個別・集団活動を適宜組み合わせた支援を行っています。	毎回、子どもの状況を確認して安心して子ども達が楽しめる支援が展開できるよう支援しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝の申し送り時、活動前に打ち合わせ、役割分担を確認しチームで連携し支援を行っています。	打ち合わせでは、その時の要点を絞り、集中して内容の確認、役割分担を行い、チームで連携して支援をしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	4		送迎等で当日での振り返りは行えない場合には、翌日の朝礼で情報共有や振り返りを行っています。	連絡帳も活用し、その日休みだった職員へも情報内容が共有できるようにしています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		HGUのシステムを活用して支援の振り返りを行っています。	支援の記録を参考に支援の検証・改善を行っています。日々の記録をしっかり残していける様、業務改善を行っていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的なモニタリングで見直しを行っています。	保護者様から相談しやすい雰囲気を提供できる様心がけています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		児童発達支援管理者、または担当者が参画しています。	利用者の気持ちを代弁でき、また会議内容に適したものが参画しています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		保険、医療との連携はあまりないが、その他の関係機関との連携は行っています。	必要に応じて、関係機関との連携を行なっていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		子ども園との支援内容の共有を行っています。	必要に応じて、関係機関との連携を行なっていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		会議等を通して相談員や併用事業所へ支援内容の共有を行い、就学時の移行に向けた学校との情報共有や相互理解を図っています。	必要に応じて、関係機関との連携を行なっていきます。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	2			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	3		法人として「あすいろ」さんに依頼。事業所として児発の対象者なし。放デイには対象の児童あり。助言などいただいています	頂いた助言を職員間で共有し、支援方法や環境設定に繋げています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4		法人の開催する行事（夏祭り、運動会、ハロウィン等）や地域の児童館や一般学童でのイベント参加を通しての地域交流をしています。	・地域の広場遊びや行事を通して地域交流の場を設けているが、今後は同年代との交流できる機会を設けられる様検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎の際の申し送りや定期的な話し合いを通して、情報共有を行っています。	今後はシステム（HGUでの活動写真の提供等）も活用し、子どもの状態や療育内容を保護者へ伝えていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		保護者向けの全体での研修（ゆんたく会）や外部の講師（土屋先生）によるの個別の保護者相談の機会を設定しています。	保護者のニーズを参考に研修内容を検討していきます。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明を行なっています。また、質問等がある際には、その都度丁寧な説明を行っています。	問い合わせがあった際には、丁寧に説明を行なっています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	4		モニタリング以外でも必要であれば確認を行っています。	定期的な確認の機会、または必要に応じて確認を行なっています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		契約時やモニタリングの際に確認しています。	出来るだけ丁寧にお伝えして理解して頂ける様にご説明しています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		相談がある際には、時間を設けて家族相談を行っています。	児童発達管理責任者や、スーパーバイザー（土屋先生）による個別面談の機会を提供し、助言等を行なっています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		法人が主催する行事（夏祭りや運動会、クリスマス会）を通して家族参加で交流する機会を提供しています。	・父母の会や保護者会の開催は行っていない為、今後は気軽に交流できる場を設けられる様検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		利用者や保護者からの困り事やご意見があった際には、迅速に対応を行っています。	気になる事があれば、迅速かつ丁寧な対応を心がけて支援していきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		SNS（facebook,Instagram)を活用し、日々の全体での活動の様子・行事や研修案内等の案内を行っています。システム（HGU）を使用しての個々人への情報発信が定期的に行えていない現状があります。	今後はSNSの他にも、システム（HGU)を活用しての個々人への活動内容の発信が継続的に行える様努めていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		鍵付きの書庫や情報漏洩防止の為サーバーを導入し管理しています。	個人情報保護法に基づき、個人情報の取り扱いに十分留意します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		お子さんによってジェスチャーや絵カード等で意思伝達を行っています。	子どもにあった共通のツールの使用等、ご家族や関係機関（こども園、併用事業所等）と連携しながら支援していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		法人が主催するイベント（夏祭り、運動会、AED研修会等）を通して、地域住民との交流を行っています。	今後も継続し、地域に開かれた事業運営をしていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		研修や訓練を通して職員への周知を行っています。	職員への周知は研修や訓練等を実施し、家族様へは利用契約時に説明を行なっています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		火災、地震津波の避難訓練を年に２回実施しています。	消防署に届出をし、訓練を行っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約時の事前の聞き取りや、その都度保護者と情報共有（かかりつけ医からの対応方法についての資料の情報共有等）し、子どもの状況確認を行っています。服薬に関してはお薬連絡票を活用しています。	安全計画に基づいて、緊急時の対応を確認できる様、研修や訓練の実施を検討していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		児童発達に対象者なし。放デイに対象者あり	対象者がいる場合には、ダブルチェックで誤って提供しないように対応していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		災害や防犯等、予測される事項について研修を行っています。	毎回、前回の反省や課題を活かし、内容を変更しながら行っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4		怪我をした時の病院の対応、その前の安全確保等、職員で確認しています。	怪我や事故の発生時には、個々の判断ではなく、病院受診を行い医師の指示を仰ぎ命を守る為に迅速な対応をしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットの事例があった際には、事業所内で情報共有や再発防止についての話し合いを持っているが、毎月定期的に検討会を開けていない。	事例があった際だけでなく、日々の支援でのヒヤリハットに繋がりそうな事案を話し合える検討会を毎月持てるようにしていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		うるま市や事業所での研修などに参加しています。	虐待のニュース等があればその都度、共有したり職員の状態の把握を行っています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		チャレンジに対象者はいないが、身体拘束について理解しています。	対象の利用者がいる際には、対応に努めていきます。その際には、事前に身体拘束を行う対象なのか、それに代わる支援があるのかを組織的に話し合っていきます。